

東京電力福島第一原子力発電所現地視察

1 日時 平成26年4月13日(日) 11:15~15:30

2 参加者(詳細は別添名簿を参照)

- ・関係市町村の住民代表 4名 ・関係団体 5名
- ・東京電力 石崎芳行福島復興本社代表ほか6名
- ・市町村職員 1名(檜葉町)
- ・事務局(県) 原子力安全対策課) 酒井主幹、水口主任主査、竹林主事

3 あいさつ概要

○開始時

(石崎代表)

事故から3年以上迷惑をかけ続けてしまい、大変申し訳なく思っている。平成25年1月には復興本社を、今年4月からは廃炉カンパニーを立ち上げた。この二つを両輪として、事故収束に向けて精一杯努力していく。本日は短い時間だが、ご意見、ご感想いただきたいと思う。

(増田 CDO)

今年4月から廃炉カンパニーを立ち上げ、廃炉に特化した組織を作った。まだまだご心配かけることが多いが、トラブルないように廃炉を進めていきたい。

○質疑開始時

(小野所長)

日々ご心配かけ申し訳ない。汚染水については長期、短期的に取り組んでいる。昨年11月から4号機の燃料取り出しを開始し、600体の移送を終了した。今後も安全第一で取り組んでいく。現在、1号機、3号機の燃料取り出し準備を進めているところ。ご心配かけないよう廃炉を進めていきたい。

4 視察内容

東京電力が準備したバスにより、別添のルートを視察。ポイント毎に東京電力担当者が車内マイクにより説明。その他、1名が後部座席に座り、代表者からの質問に答えていた。

5 住民代表等からの主な発言概要(対応者:東京電力小野所長)

- ・視察を行い、東京電力が廃炉に向けて大変な苦勞をしていることがわかった。とてもためになった。(酪農業組合、農協、川俣町、川内村)
- ・配管がすべて露出しており、5~6年で劣化しそうである。使用年数の長いものに交換すべきではないか。(酪農業組合)
→(耐用年数が)10年オーダーのポリエチレン製の配管に交換しているところ。
- ・低レベル廃棄物の処理はどうするのか。(酪農業組合、川内村)
→低レベル廃棄物については建設中の焼却炉で処分することになるが、高レベル廃棄

物の処分については今度検討していきたい。

- ・ 廃炉に約 40 年を要するのは、技術的、法律的、手順的のどこに問題があるためなのか。

(川俣町)

→技術開発は遅滞なく行いたい。(明確な回答にはなっていなかった)

- ・ トラブルばかりではなく安心できる情報も発信すべきだ。(農業組合)

- ・ 作業員の人材確保が重要である。勤務環境の改善が必要。(農業組合、広野町)

→解決できるものについては改善していきたい。休憩所の建設も予定している。

- ・ 敷地内の除染を行うなどして作業員の被ばく量を減らすべきだ。(広野町)

→ガレキの撤去やフェージングなどして、マスク省略可能区域を増やしていきたいと思う。